

レックス・インターナショナル



イランの街角で（左がソラさん）

RECS

コンサルタント事業部

ソラ・アントワーヌさん
〈33歳〉

Antoine Saurat

来日10年、自己研さんを続ける

2006年に来日し、今年で在日10年目になります。母国フランスの大学で都市計画を学び、修士号を取得しました。昔から異文化に触れることや外国語を勉強することが好きでしたが、当時は国際協力の分野は意識しておらず、こうして日本で腰を据えて働くことも予想していませんでした。

来日した際の頃は、片言の日本語しか話せませんでした。都市計画という専門性が武器となり、大学のまちづくりの研究室で技術補佐をする機会に恵まれました。日本語も上達し、滞在を延長することを決めた後は、国内向けの建設コンサルタント企業に勤務し、都市計画の実務に携わるようになりました。

国際協力の分野に出会ったのは、本格的に働き始めた前職時代です。都市計画の専門知識と語学力を生かして、海外業務に携わりたいという思いからその会社に就職し、政府開発援助（ODA）のインフ

ラ事業を中心とした業務に携わりました。

その後、2013年に現在のレックス・インターナショナルに転職。自分の専門分野でODA案件に携わりたいという思いがかない、さまざまな国の地域計画や都市計画の案件を担当しています。

現在注力しているのは、イラン南部ゲシュム島のマスタープラン策定です。天然資源と自然環境が豊かな同地では、「開発」「自然保全」「伝統社会の継承」の均衡ある将来計画が課題となっています。プロジェクトでは、環境面・社会面・経済面を考慮した3つの開発シナリオを設定し、地理情報システム（GIS）を用いて各シナリオに応じた空間構造と環境影響を分析。その結果から、現地の開発環境などの関連部局の職員らと開発方針を議論しています。

近年は開発途上国の技術水準が上がり、日本はより高度な技術を提供することを求められています。

Check

地域に寄り添いながら開発方針を探る

1995年設立のレックス・インターナショナルは、開発途上国の開発プロジェクトを実施する総合コンサルティング企業だ。同社の橋本強司代表取締役は、先進国を含めた世界50カ国以上で、都市・地域開発や環境など、多岐にわたる分野のコンサルティング・サービスを提供してきた。世界的な都市・地域プランナーとして、また、日本のコンサルティング業界の指導者のひとりとして、橋本代表取締役は一般社団法人海外コンサルタント協会（ECFA）の理事も務めている。

途上国の開発事業や国内の国際事業にかかわる調査・計画立案・評価・管理などを手掛ける同社は、高度なサービスの提供を通じて国際社会における日本の役割と地位の向上、相互理解、国際協力に貢献することを目指している。都市開発や農業、水資源など、さまざま分野で実績を有していることに加え、ソフトとハードのバランスの取

れた総合コンサルティングが同社の強みである。昨年からの3年間のプロジェクトとして開始したイランの地域開発マスタープラン策定は、同社の目玉案件のひとつ。同プロジェクトをはじめ、世界各国で、環境や文化を守りながらより良い開発を進めていくための協力を展開している。



company data

株式会社レックス・インターナショナル
RECS International Inc.
〒102-0075 東京都千代田区三番町24-28 千代田ハヤシビル2F
設立：1995年6月 資本金：1500万円 従業員数：27人
代表者：代表取締役 橋本強司
事業分野：・コンサルティング事業：都市・地域開発、農業・農村開発、社会開発、環境、水資源など
・研修・教育・出版

recruitment

新卒採用：なし 中途採用：あり
募集職種：開発コンサルタント（都市・地域開発、農業・農村開発、環境、水資源、マクロ経済、その他）

TEL：03-5211-5519(代)
E-mail：reco@reco-intl.co.jp
URL：http://reco-intl.co.jp/recruit/index.html

Career Path

- Age 23
フランス・ボルドー第3大学の都市計画・国土整備学院で修士号を取得。来日して東京大学で地域資源計画論に基づきまちづくりの技術補佐
- 25
国内向け建設コンサルタント企業で都市計画に携わる
- 28
開発コンサルタント企業に就職。ODAのインフラ案件に従事
- 30
レックス・インターナショナル就職。現在、イランの地域計画案件に従事
- 33
筑波大学システム情報工学研究科の博士課程に入学

技術移転を続けるためには、自身の能力向上が欠かせません。この4月からは大学院の博士課程に入学し、業務の傍ら、博士論文の執筆を進めています。地域・都

市の将来像を描くためには、あらゆる人と協働して議論することが大切です。研究・調査を通じて国内外の人と協力しながら支援に打ち込みたいと思います。